

宮永岳彦と旅にでる



令和 2(2020) **11.27** (金) ~ 令和 3(2021) **6.27** (日)

秦野市立 宮永岳彦記念美術館

開館時間 | 10:00~19:00

休館日 | 月曜日 (祝日の場合は翌日)

主催 | 秦野市

観覧料 | 一般 300 円

(隣接する「弘法の里湯」をご利用の方は 200 円)
高校生以下、障害者手帳をお持ちの方と介護の方 1 名は無料

協力 | ペンてる株式会社 小田急電鉄株式会社

宮永岳彦と旅にでる

令和 2(2020) 11.27 (金) ~ 令和 3(2021) 6.27 (日)

風や香り、熱気までも感じさせる油彩画、凜とした静寂に包まれる水墨画、旅情をかき立てるポスター、そして、スナップ写真のような挿絵。本展では、商業デザインから純粹絵画まで多岐にわたって活躍した洋画家・宮永岳彦（1919～1987）の風景を描いた作品を中心に展示します。

仕事でもプライベートでも国内外を精力的に訪れた宮永ですが、風景画として描いたものの多くはアトリエ兼住まいのあった秦野近郊、または勤務先の銀座を中心とした東京の身近な風景でした。特別な絶景でも、幻想的な景色でもない身近な風景が、宮永の手によって魅力的に描かれました。そこには、身の回りのささやかなことに目を向け、大切にしていた宮永の想いが感じられ、スケッチブックに筆を走らせる等身大の画家の姿が目浮かぶような気がします。

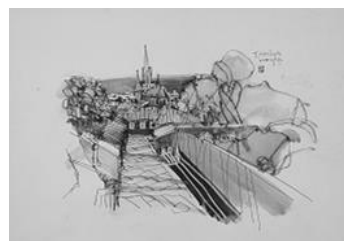
宮永の風景画を通して、都会のビルや雑踏、郊外ののんびりとした情景、そして、重厚な山や海の景色を、時間と空間を越えて画家と一緒に眺めている、そんな気分を味わいながら、小さな旅をお楽しみください。



《茅ヶ崎風景》油彩・キャンバス 1957年



《「雅光」亀安寺石庭》墨・紙 1975年



《川上宗薫著『傾斜面』装幀原画》制作年不明



《甲府市「昇仙峡」ポスター》印刷物 1953年



《レストラン》油彩・キャンバス 1951年



《暖》油彩・キャンバス 1986年

令和3(2021)年は
宮永岳彦記念美術館
開館 20 周年



宮永岳彦（1919～1987）

「光と影の華麗なる世界」と称される美人画で知られる宮永岳彦は、父親の転勤のため静岡県磐田郡（現在の磐田市）で生まれ、名古屋市立工芸学校に学びました。2度の兵役後、実家のある秦野に帰り、松坂屋百貨店銀座店宣伝部に勤務しながら、昭和21年から15年間、秦野市名古屋のアトリエで創作活動を続けました。二紀会の設立に参加、昭和54年には日本芸術院賞を受賞、昭和61年には二紀会理事長に就任。油彩画をはじめ、ポスター、童画、表紙画、挿絵、水墨画など多彩な作品を残しました。

表：とうきょう広報 挿絵原画

Hakone national Park ポスター

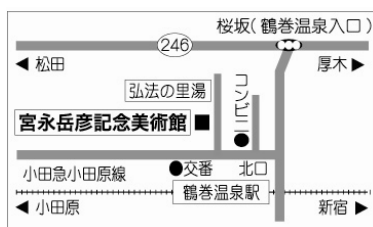
国定公園丹沢大山画集「丹沢 初夏の札掛」

秦野市立 宮永岳彦記念美術館

〒257-0001 神奈川県秦野市鶴巻北3-1-2

TEL/FAX 0463-78-9100

《隣接》公営日帰り温泉 弘法の里湯 TEL 0463-69-2641



美術館へのアクセス

- ◆ 小田急線 鶴巻温泉駅より徒歩2分
- ◆ 駐車場 弘法の里湯と共用
40台 / 1時間150円
以降30分ごとに100円